



3月9日・中山・3歳末勝利戦 初勝利のウィナーズサークル

小島友実の あの馬の STORY



ノーブルノール

今回ご紹介するのは今年3月9日の中山ダート1800mで初勝利を挙げ、現在1勝クラスに在るノーブルノールです。ディープインパクトを父に持つ母テルヌラの初仔で、管理する林徹調教師は1歳募集時のインタビューで「本馬フーブルノールは母と父のリオンデイズの長所を組み合わせる感じで、初仔でもしっかりしている印象です」とお話されていました。

デビュー戦となった昨年10月12日の新潟芝1600mは発馬のタイミングが合わず後方からの追走となり、10着でした。

「直線で上がり3ハロフー位の脚を使うものの、スタートダッシュなどを含めてまだ非力な部分がありました。ただ素質の片鱗は見せてくれた印象で、次は距離を伸ばした方が良いかなと感じた一戦でした」

NEW ERA(モリファーム)での放牧を挟み臨んだ2戦目は12月22日の中山芝2000m。結果は11着でした。

「距離を伸ばすことで良さが出ればと考えていましたが、期待していた結果にはなりません。レース後に石川裕紀人騎手から『走りガワンペースなのでダートの方が走れるのではないですか?』という難いアドバイスをいただきましたので放牧を挟み、3戦目はダートへ向かいました」

その3戦目の3月9日の中山ダート1800mで嬉しい初勝利を挙げました。「まだトモが非力なので、スタートがポイントだと思っていました。でも幸英明騎

手がうまくスタートを出してくれて、流れに乗ることができました。脚抜きの良い道悪のダートも合っていたのだと思います。勝って本当に良かったです」

このあと、ノーブルノールは長めの休養に入ります。

「初勝利の内容から1勝クラスで勝負するには難しく、パワーアップが必要と感じましたから、NEW ERAさんへ移動させていただきました。3戦目はダートでしっかり走りきってくれたので、反動も出ました。そういう状況なので、3月の段階で初勝利できたのは大きかったです」

休養を経て、9月15日の中山ダート1800mで出走し10着でした。

「プラス10%と一回り成長していましたが、期待していません。ただ結果論になりますが、良馬場のダートで走るにはまだパワーが足りなかったと感じました。それでも1着2着馬について行きながらも最後まで粘っていたので、昇級初戦としては収穫があったと思います」

この後は続戦し、10月11日の東京ダート1600mに向かいました(11着)。

「中山のダート1800mではパワー不足だったので、距離を短縮したらどんな競馬をしてくれるのかと考えて、この条件に出走しました。道中は脚をためて直線で勝ち馬の後から追いつく形は良かったと思います。しかし、現状では芝スタートとマイルは忙しいのかもしれないと感じました」

5戦目の後は再びNEW ERAに放牧に出たノーブルノール。現状での評価や今後について伺いました。

「1歳の頃から乗り味の良さを牧場さんに評価していただけていましたから、まだ伸びしろがあると思っています。前走の結果を考慮すると、現状はダートの1800m前後を走りながら心身ともに成長を促していくのが良いですね。具体的な復帰戦は馬の状態にもよりますが、グリーンファームさんに相談させていただきながら決めていこうかなと思います」

トレンセンの馬房に在る時のノーブルノールについても伺った。普通の可愛らしい女の子です。競馬場に行った時や強い調教後に繊細な面を見せたり、テンションが高くなる時があるのも、もう少し落ち着いて欲しいというのがありますね」と教えてくれました。

最後にメッセージをいただきました。「まずは現級でしっかりと目処が立つように、会員の皆様のご期待に添えるようなレースをコンスタントにしていけるようにしていきたいと思っています。ノーブルノールは確かな素質がある馬です。その能力を十分発揮することができるよう、牧場さんとも連携し、厩舎スタッフとともに力を合わせて頑張っていきたいですね。精一杯努めさせていただきますので、今後暖かいご声援をお願い致します」

ちなみに、ノーブルノールは飼料はそれなりに食べるんですけど、実になりにくいタイプ。代謝が良いのかもしれないので、飼料を食へられるのは牝馬にとって大きいですし、今後の成長に期待したいですね。

(電話取材：10月29日)

profile

競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2024年「馬場のすべて教えます2(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。